

JARL



香川クラブ報

第 227 昭和 61 年 12 月 15 日



社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

忘 年 会 の 御 案 内

例年どおりの差さがやってまいりました。クラブでは恒例の忘年会を例年に
ならい今年も下記のとおり開催いたしますので御案内申し上げます。

多数の方々の御参加を頂き、にぎやかな会になるよう期待しています。

記

日 時 昭和 6 1 年 1 2 月 3 0 日 午後 6 時から
場 所 とんから赤松 TEL 3 1 - 8 0 4 5
(瓦町駅北フエリー通り 200 m)
会 費 6 , 0 0 0 円程度
申 込 先 庶務担当 JA 5 T F J 横田まで
締 切 1 2 月 2 7 日まで

お 知 ら せ

JARL 香川・瀬戸大橋賞発行委員会(委員長 JA 5 A G 局)で行っている 瀬
戸大橋賞に付随する「アクティブ賞」(記念 Q S L 発行者に対してアワード申
請審中のコールサインの集計による上位局)の今年の途中経過数を入手しまし
たのでお知らせします。(12月10日現在)

JA 5 T F J	80	JA 5 A R W	14	JH 5 E O Q	71	(一 部 の み 掲 載 さ せ て 頂 き ま し た)
" O C	77	" T N N	14	" C V W	41	
" C K S	70	" P S	13	" P S P	37	
" G P A	65	" I Q P	13	" P Y D	33	
" A G	49	" L I B	13	" S N N	33	
" J N J	34	" D V A	12	" N H K	19	
" I K J	32	" I L	11	JR 5 J G I	109	
" S M A	32	" A Y E	11	" T B L	49	
" C A U	27	" C A D	11	" S I B	35	
" K T N	24	" N I Y	11	" K Q F	29	
" U Y	23	" Y D E	11	" S Y R	26	
				" D H M	20	

秋のフィールド・ミーティング

J A 5 I Q P

紅葉のいまだ残る11月29日(土)～30日(日)クラブ恒例の秋のフィールド・ミーティングを高松の奥座敷塩江温泉郷で開催しました。

会場は「ヴァイラ塩江」の10階にクラブ移動局を設営することから始まり、HF帯のにぎやかな交信音を背に、それに負けじと騒々しいほどのミーティングを展開しました。なぜならばそれは「オミキ」を伴ったからなのです。

順を追ってその経過を報告しましょう。

29日は土曜日のこととて、まだ半ドンのしきたりが残っている者、完全に休みの者、終日勤務の者とさまざまで、まさに過渡期の様相を示している世相を反映して文字どおり三々五々の集りではありました。が、ようやく予定どおりの出席者が揃ったところで、JA5CAU(平井氏)局御自慢の料理が皿に盛られ、色々とそれにまつわる解説を混えて食事付きのミーティングへと展開されていくのでした。

当クラブにとって泊りがけのミーティングは久しぶりのこととて、また場所が温泉地ということもあってか話しは尽きず、その上今回は家族会員の参加とあいまって、なごやかな雰囲気はこの上なしでありました。(前出のCAU局はたくさんのさしみを造った功績が認められ、この日から「叔さん」の別名をもらいました。)

翌30日は前日の夜ふかしにも拘らずそれぞれに早起きし、眼下の内場ダムを眺め、四方(よも)の山々を見上げて各局至極御満悦のもようでありました。

ダムといえは、長らく雨が降らないこともあって水量は少なく、ほんとうに湖底のふるさが見える程干上っていました。

その水に関してここに面白いエピソードがあります。水割りに綾歌の某造り酒屋の水が良いとて、朝の出動時にこれを通線で同地の局に所望したところ、メリットが悪くて『水を持って来い』という所だけがとれたとかで、塩江では水の便が悪く、加えて飲水にもこと欠くのかと心配、かといってそれ程の所へあえて行くとは考えられないと一日中悩み、夕方帰りに再度無線で確認をとりやっと納得という一幕があったということです。

しかし、おかげ様で同酒屋のレツテルを貼った一升ビン2本の持参を頂き、とてもおいしかったとはお酒の味が分かる御人の弁でした。

クラブ局の運用は30数局を数えJA5YDE/5塩江を全国に伝え、瀬戸大橋
博の記念カードを送ることを約して一応の成果を納めました。

当日の参加局は次のとおりでした。御協力を感謝します。

JA5AG JA5MG JA5UY JA5CAU JA5IQD JA5IQP

JA5IRP JA5KWF JA5MIK JA5VOJ

JA5CSS JA5DZM JA5KEM JA5OIA JA5OIB

他にJA5KWF局のXYLさん、広瀬さん(コール待ち)等々

◎ 今回の会場設営に關し、場所柄JA5CAU局の御援助を頂きましたこと
を報告申しあげるとともに紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。

レピーター運用に再考を

JH5LYW 三好 伸幸

去る9月中旬、仕事の都合で高松から八幡浜経由で九州へ行くことになり、
午後8時バスで出発した。ハンディ機片手にXYLやフレンド各局とまずシンプ
レックスでQS0。メリツトが悪くなったので今後はJR5WL(439.56城山)に
QSYして時々現在地を連絡する旨約束してワツチに入る。439.56ではいつもの
OMさんがラグチューを楽しんでいる様子。「まあ、しばらく時間がある」と
思い聞いていたが、ブレイクタイムをあけないままQS0が続く。琴平町内もぬ
ける頃やっとあいたのでフレンドを呼び現在地を連絡。次は山本町ぐらいでJ
R5WD(439.70高瀬)で連絡を約束する。

伊予見峠を過ぎて439.70をワツチすると、ここもかなり名の知れたOMさ
んがラグチューしている。やはりブレイクタイムは一切なく、掛合い慢才のご
とくQS0している。「豊浜町あたりまでに明けばいい」と思っていたが、まだ
明きそうにない。

県境近くで「このままでは連絡がとれなくなる」と思い、「ブレイク!」。
だがハンディ機の悲しさか明けてもらえず、3度目ぐらいにやっと「ブレイク
ですか?」。その頃にはすでにサービスエリア外になったのか通話断続気味。
フレンドが訳を話して連絡開始。「JR5W0(439.64土居)にQSY」を伝える
もなかなか内容が伝わらず、やっと土居町レピーターが分かったらしく「周波
数を調べてQSYする」旨連絡があり、JR5WDを使用中だったOM諸子に割り
込みのお詫びを言ってくれているのが聞こえた。

しばらく聞いていたが、またロング QSO が続краしい。溜め息をつきながら 439.64 に QSY する。「フレンドが呼んでくるまでワツチするしかない」と思っていると、地元の局が出てきて QSO 開始。「こりゃあ長くなるのかな?」と聞いていると、時々ブレイクタイムをとりながら 3 ~ 4 分もするとファイナル。救われた思いになっているとフレンドからの呼び掛けあり。「土居町を走行中」の旨を連絡、次は桜三里手前を約束して QRX。

小松町に入ってアクセスしてみるも反応なし。「こりゃあまいった」と思っているとフレンドから呼んでくる。早速応答するも伝わらず、あきらめていると事情を察知したのか、「午前 0 時に JR5WA (439.40 高縄山) にてコールする」旨一方的に言ってきた。

桜三里を越え 439.40 に合わすも、なぜか何も聞こえてこない。時々アクセスを試みながら松山市も通過。約束の時間になっても全く入感なし。「こりゃ、レピーターが運用していないな」と理解、ついに高松との連絡は途絶えた。

九州で 2 泊 3 日の用務も無事終え、帰路倉敷から JR5WB (439.72 小豆島) で旅の無事を伝え、予定より 8 時間遅れて今回の旅行は終わったのである。

さて、今回旅行の往復路、「できるだけうまくレピーターを利用してみよう」と思っていたが、「こんなに苦勞するとは思わなかった」と後でフレンドとぼやくことひとしきり。

レピーター管理委員会のメンバー(?) や名の知れた OM さんが、話の内容は別にして、ブレイクタイムを明けないまま 30 分も 40 分ものロング QSO。たまたまそんな時に行き合わせた当局が不幸せだったのかも知れないが……。

『香川県内のレピーターは開放的』と言いながらも、「実情は独占的なのかなあ?」と思った。

「各局、もう一度レピーター運用の方法を考えてみたら」と思うのは、ひりり当局だけでしょうか……?。

お 詫 び と 訂 正

先号 № 226 P. 4 新入会員紹介に際し誤りがありましたのでお詫びします。よろしく御訂正ください。

JH5BZB 局の氏名 三 木 博 之 様 です。

◎ 各局 よいお年をお迎えください。BEST 73 ㇔ 88 (1986 年) ◎

社団法人 日本アマチュア無線連盟

香 川 ク ラ ブ 報

発行責任者 JA5AHM 天 野 英 弘

編 集 者 JA5IQP 合田口 正 春

“ JA50IB 合田口 キヨ子

連絡事務所 高松市中新町

(〒760) 天 野 英 弘 方

(TEL) 高松

“

郵便振替口座 徳島 4-8758 JARL 香川クラブ